

JP065 阿武隈川 (あぶくまがわ)

福島県：福島市、伊達市

位置	N 37° 46′ E 140° 30′
面積	660ha

環境構成【河川／樹林／里山／広葉樹林・針葉樹林】

阿武隈川は、福島県西白河郡西郷村鶴生の那須連邦・旭岳に源を発し、途中川の西側にある奥羽山脈と、東側の阿武隈山地から流れ込む大小の支流（246 河川うち福島県内 153 河川）が一つの川となり、宮城県亘理郡荒浜にて太平洋に流れ込む、流路は南から北に延長 239km に及ぶ一級河川である。

阿武隈川流域の約 8 割は山地であり、大小の滝やケヤキ・クヌギ・ナラ等の広葉樹も川の周囲には多く、紅葉の季節の景観は見事である。

また、アユ・ウグイ・ヤマメ等約 40 種を超える魚と、冬鳥のハクチョウ・カモ等、約 160 種の野鳥も確認されている。



写真：鈴木弘之

選定理由

A4i	オナガガモ
-----	-------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

保全への脅威

- ・特に無し

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
<調査データの入手方法>
日本野鳥の会ふくしま

- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
 - ・ IBA 選定基準種の生息環境：普通（70～90%が最適の状態）
 - ・ IBA エリア保全管理計画の有無：無
- *2008 年秋のハクチョウ類・カモ類の飛来時期から、鳥インフルエンザ対策として行政機関が給餌の禁止対策を講じたことにもない、サイト内の主な飛来地で給餌を中止した。このことにより、飛来地の分散および新たな餌場を求めての採食行動の変化があった。（ある意味で、あるべき姿に移行している）
- さらに、2011 年 3 月の大震災および原発事故にもない、人間の河川利用が制限・自粛されたため、人間とハクチョウ類・カモ類のために環境整備された飛来地の環境悪化が進んでいる。

保全活動

- ・ 環境教育活動：
 - 内容：年 6 回（基本的に偶数月）第一日曜日に一般市民の参加も可能な探鳥会を開催。（日本野鳥の会ふくしま）
 - 水生昆虫の調査、観察会（福島県自然保護協会）
- ・ モニタリング調査：実施者（日本野鳥の会ふくしま）
 - 内容：毎年 1 月第 2 日曜日に実施するサイト内のガンカモ類生息調査
- ・ 環境管理
 - ゴミ拾い活動（水辺の会わたり）
 - 河川保護保全活動（環境省、福島県）
- ・ その他
 - 阿武隈川流域河川懇談会*国土交通省福島工事事務所との定期的会議（日本野鳥の会ふくしま）

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

日本野鳥の会ふくしま

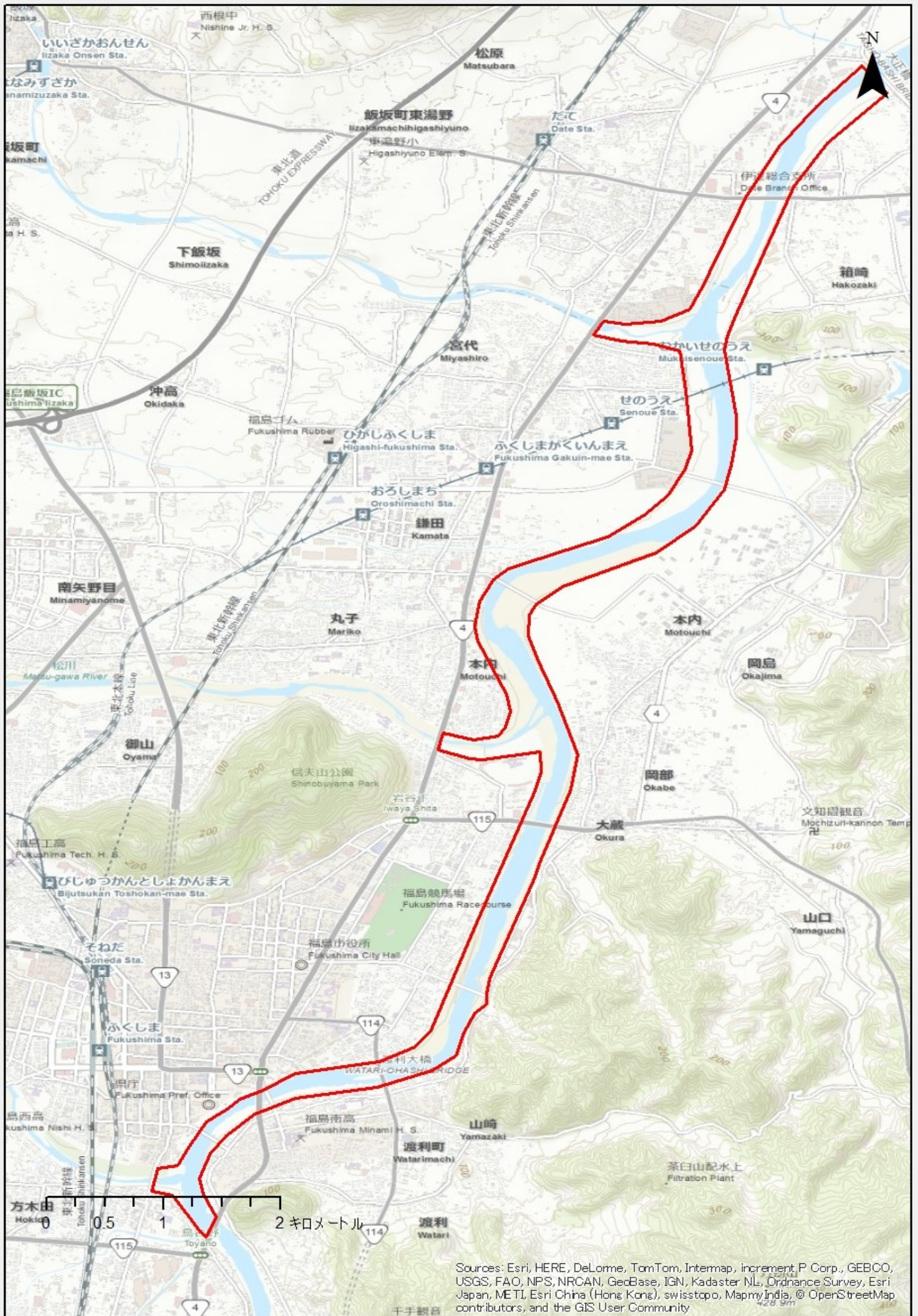
見られる鳥

阿武隈川では上流域の亜高山帯に住む鳥から、中流域の低山里山市街地の鳥たち、そして下流域の海辺の鳥まで、地域ごとの特性ある鳥を観察することが出来る。冬期は個体数合計で 1 万羽を越す水鳥の越冬地である（蓬莱橋～大正橋で約 15,000 羽／2006 年 1 月 8 日）。また、夏期においてもオオヨシキリ・イカルチドリ・カッコウなどが繁殖し、年間をとおして様々な鳥類の生息環境となっている。

留鳥	カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、オオバン、バン、カワセミ、ヤマセミ、キツツキ類、ヒヨドリ、モズ、カラ類
夏鳥	アマサギ、チュウサギ、カッコウ類、サンコウチョウ、キビタキ、オオルリ
冬鳥	ハクチョウ類、カモ類、ジョウビタキ、アトリ
旅鳥	シギチドリ類、レンジャク類

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会ふくしま
- ・福島市小鳥の森



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community